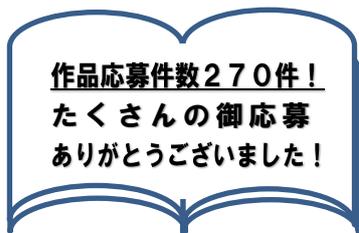


(広報資料)



令和3年9月22日
 京都市文化市民局
 京都文学賞実行委員会
 〔担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課〕
 〔電話：366-0033〕

「第3回 京都文学賞」作品の応募状況等について

京都市では、文学の更なる振興や「文化都市・京都」の発信等に寄与するため、令和元年度から、「京都文学賞」を実施しています。

第3回となる今年度は、4月30日から作品を募集し、9月13日の締切りまでに、270件の御応募をいただきましたので、お知らせします。第1回一般部門最優秀賞及び優秀賞作品は協力出版社から書籍が刊行され、第2回一般・海外部門最優秀賞作品も10月下旬の刊行を予定しており、今回も受賞作の出版化を目指します。

また、読者選考委員については、4月30日から8月2日まで募集を行い、新たに5名の方を選定しましたので、併せてお知らせします。

記

1 作品の応募件数について

部 門	応募件数	備 考
一般部門	218件	
中高生部門	42件	中学生25件, 高校生17件
海外部門	10件	中国4, 韓国2, アメリカ1, イタリア1, 台湾1, ロシア1 ※本人の申し出による
合 計	270件	

<最終選考委員からのコメント>

いしい しんじ (作家)

京都は物語でできた町。そこに、今年もあらたに300編近い新作が加わりました。

応募作はすべて「候補作」。切実な声、豊かなことば、ふたつとないストーリーとの出会いを、こころから楽しみにしています。



井上 荒野 (作家)

コロナ禍、そして京都という町。化学反応のようなものは起きるでしょうか。

私にとってはこの文学賞のはじめての選考になります。どきどきしながら待っています。





初回からコロナ禍に見舞われた本賞ですが、それにも拘わらず、この第三回で300篇近い応募があったことは嬉しいことです。今回は、どんな京都に出会えるのでしょうか。もの凄い傑作が来ているのではないかと、いまから期待が高まります。

【参考：第3回京都文学賞の募集概要】

- 募集作品：京都を題材とする小説（ジャンル不問）
- 応募規定：<一般> 28,000字以上160,000字以内
<中高生> 400字詰(20字×20行)原稿用紙換算で、20枚以上150枚以内
<海外> 8,000字以上60,000字以内
- 賞の内容：<一般> 最優秀賞1点 賞金100万円、出版化
優秀賞1点 賞金50万円
<中高生> 最優秀賞1点 図書カード10万円分
優秀賞1点 図書カード5万円分
<海外> 最優秀賞1点 賞金10万円

【参考：受賞作の書籍刊行について】

- ・ 第1回一般部門最優秀賞
『羅城門に啼く』（『もう森へは行かない』改題）松下隆一著（新潮社から令和2年11月刊行）
- ・ 第1回一般部門優秀賞
『屋根の上のおばあちゃん』（『太秦——恋がたき』改題）藤田芳康著（河出書房新社から令和2年11月刊行）
- ・ 第2回一般・海外部門最優秀賞
『鴨川ランナー』グレゴリー・ケズナジャット著（講談社から令和3年10月下旬刊行予定）

2 読者選考委員の選考結果について

全国から31名の御応募（市内14名、市外17名）があり、応募内容（課題作品（※）の感想、応募理由など）を基に、実行委員会事務局において選考を行い、新たに5名の方を選定（市内3名、市外2名）しました。再任の35名の委員と合わせ、合計40名（市内12名、市外28名）の読者選考委員に二次選考を行っていただきます。

なお、読者選考委員の選考結果については、本日以降順次、応募者へ通知します。

- （※）以下5作品のいずれか1作品
『羅城門に啼く』松下隆一著（新潮社）
『屋根の上のおばあちゃん』藤田芳康著（河出書房新社）
『古都』川端康成著（新潮文庫）
『家守綺譚』梨木香歩著（新潮文庫）
『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』七月隆文著（宝島社文庫）

3 今後のスケジュール

- 令和3年 9月中旬～ 一次選考（書評家などの専門家）
9月下旬 読者選考委員結果通知（10月中旬に説明会実施）
11月上旬 **一次選考結果発表**
- 11月上旬～ 二次選考（読者選考委員）
令和4年 1月上旬 **二次選考結果発表**
2月中 最終選考会（いしいしんじ氏、井上荒野氏、めんじょう校條剛氏、読者選考委員の代表等）
3月中 表彰式（予定）
受賞作の発表